

プログラム番号	06031
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	名古屋大学 工学研究科		
②学長名	平野 眞一		
③所在地	〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	エコトピア科学研究所・教授	
	担当者氏名	舘石 和雄	e-mailアドレス tateishi@civil.nagoya-u.ac.jp
	電話・FAX番号	052-789-3741・052-789-1674	
⑤ホームページ URL	http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index.html		
⑥大学院在学留学生数	902人(うち、国費留学生 272人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	留学生のための最先端土木技術研究プログラム
②プログラムの形態	博士後期課程(3年間)
③実施研究科・専攻	工学研究科 社会基盤工学専攻
	(所在地) 名古屋市千種区不老町
④連携大学・研究科・専攻名	名古屋大学・環境学研究科都市環境学専攻空間環境学コース
⑤受入れ学生数	7人(うち研究留学生優先配置人数: 7人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 55人(うち専任: 33人、兼任: 4人、非常勤: 18人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院工学研究科・教授
	研究科長名 澤木 宣彦

【3. プログラムの内容】

1. はじめに

東南アジアを始めとする発展途上国では、経済の発展のみならず国民の福祉向上の基盤としての社会資本の整備、充実に対する要望は極めて切実である。発展途上国の中には近年めざましい経済発展を遂げている国もあるが、過剰なまでに急激な速度で社会資本が整備され続けてきたことによる弊害や、社会資本ストックの量に伴って飛躍的に高まる災害リスクの増加、国内における地域格差などの問題を抱えている。これらの国とより効果のある協力関係を築くには、社会基盤、すなわちインフラストラクチャーに関する調査、計画、設計、建設、維持・管理にわたる土木工学分野の人材の確保と養成が不可欠である。発展途上国の社会資本の整備、充実は短期間で実現できるものではなく、また多数の優秀な人材や国際的支援を必要とする。そのために本プログラムは、英語により留学生を教育し、

- ①揺るぎのないしっかりとした先端的土木技術と幅広い知識を身につけた人材の育成
- ②修了生を拠点として日本と諸外国間の交流を深め、国際的な技術支援体制の構築
- ③それらの長期的な継続

を趣旨として開設するものである。

2. 内容及び特色

本プログラムでは、先端的な専門知識を留学生に修得させ、修了後にそれぞれの国で指導的な研究者、技術者として活躍できる人材を育成することに主眼を置く。社会基盤工学専攻の1教員あたりの学生数（学部4年生及び大学院生）は平均7名程度で、全国でも屈指の少人数教育体制となっており、本プログラムの留学生に対してもきめの細かい指導を行うことができる。

本プログラムは、修了生を中心とした国際ネットワークを発展させるための人材育成プログラムとしても重要である。本専攻では約20年間にわたって多数の特別コース修了生を輩出してきた。その存在は何物にも代え難い貴重な財産であり、それを有していることも本プログラムの大きな特色である。

本プログラムでは高度な研究指導を主とするが、高級エンジニアとして活躍するためには、昨今の技術の多様化、複雑化にも対応でき、国レベルを超えた広域的な視点を兼ね備えることも必要である。そこで、研究指導に加え、構造や計画といった専門の枠を越えた分野横断型の知識を講義する科目を社会基盤工学専攻内に創設し、留学生に受講させる。さらに環境学研究科都市環境学専攻との連携により、同専攻で開講されている科目を受講できるようにし、環境学の視点からの幅広い知識を身につけることもできるようにする。以上の科目はすべて英語で受講することができる。

3. 教育・指導体制

留学生は入学直後から所属研究室に配属され、研究活動を開始する。途中、数度にわたり専攻全体で各学生の進捗状況をチェックすることにより、学位が確実に3年で取得できるよう、教員・学生とも最大限の努力をする。Fig. 1に本プログラム概要を示す。

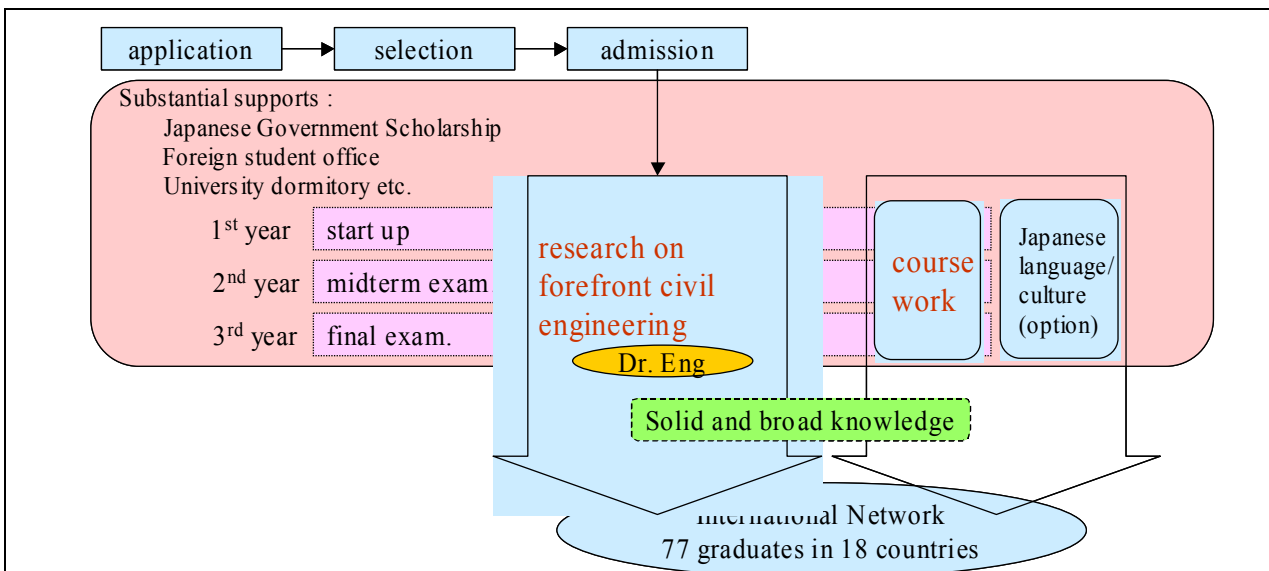


Fig.1. Framework of THE FOREFRONT STUDIES PROGRAM FOR CIVIL ENGINEERING

4. 学生生活支援

名古屋大学は日本でも屈指の留学生受入数の多い大学である。そのため留学生センター(ECIS)や国際交流室など、全学レベル、研究科レベルで留学生に対する様々なサポート体制が整備されている。また、留学生向けの宿舎として、留学生会館、インターナショナルレジデンス、国際嚶鳴館があり、本プログラムの留学生も来日当日からそのいずれかに入居できる体制を整えている。

5. 使用言語

研究指導、論文審査など、修了までに必要となるすべてのプロセスは英語で行う。一方、日常生活や日本文化理解のために日本語の学習を希望する留学生に対しては、研究を妨げない程度で履修を推奨する。名古屋大学では、留学生センターにおいて日本語教育プログラムが実施されている。

6. 選考方法

選考は応募書類を基に全教員で行い、成績によって候補者を選出する。その後、電子メールなどで候補者とコンタクトをとり、メール上で試問を行う。その結果によって英語力や説明能力などに関する適性を判定し、最終的に推薦者を決定する。

7. 修了後に想定される進路およびフォローアップ体制

これまでの特別配置留学生は、修了後には母国の大学、官庁及び企業へ進み、指導的な役職についている者が多い。修了生と教員との間での共同研究の促進、インターネットを活用した修了生との交流の場を設ける。実社会で活躍している修了生による特別講義の定期的開催などにより、修了生と本学の教員・在学留学生・日本人学生との交流を深めるとともに、新たな研究の国際協力の可能性を探る。